

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 平成20年度 第2号 平成20年7月1日発行

発行所：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL：052-652-5511

FAX：052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

新病院が完成しました



副院長 小林 建仁

地域の皆さま、そして私たち病院職員全員が待ちに待った、新しい中部ろうさい病院が完成いたしました。そのコンセプトは病院らしくない病院です。スマートで調和のとれた落ちつきのある外観。正面玄関には、癒しのこころみとして、ステンドグラスや陶版画を配置しました。

また、300坪の屋上庭園は花と緑が豊かで、入院患者さんの心やすらぐ場であると同時に、1週139m、10週で150Kcalを消費できる、運動療法の場でもあります。外構には、以前から皆さま方の親しまれております桜の木をできるだけ残し、800台以上が収容できる、スペースたっぷりの駐車場も用意いたしました。

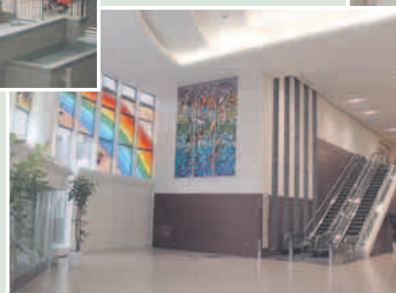
なお8階病棟の特別室の天井には、山本容子氏作の天井画“人生の楽譜”が描かれています。この特別室を利用した人間ドックも行っていますので、ぜひご利用下さいませようお願いいたします。

そこで今、この素晴らしい施設を最大限に活用して、より安全で質の高い医療を提供してい

くことが、私たちの責務であると考えています。そのために、患者さまには豊かな人間性を持って接し、日々進化している医療状況には的確に対応して、常に最新の知識と技術を修得すべくさらなる努力を重ねていく必要があると思っております。

そして、同時に大切なことは、地域の診療所の先生方との密接な連携の構築です。紹介された患者さんの検査結果や、診療状況をきめ細かに報告し、急性期治療が終了したら、紹介元の医療機関にその後のフォローアップをお願いする。このような紹介、逆紹介の機能をより円滑に推進することによって、診療機能の役割分担が可能となり、診療所と病院はお互いに共存共栄の関係を築くことができるものと考えています。そしてこのような信頼関係の構築こそが、地域住民にとっての医療に対する安心感に繋がっていくものと確信しています。

今後ともどうぞよろしくご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



着任のご挨拶



代謝内分泌内科（糖尿病センター）部長 **中島 英太郎**

この度、長年お世話になった名古屋大学附属病院を退職し、4月1日付けで中部ろうさい病院の代謝内分泌内科へと参りました。

私は、昭和の最後の卒業生となる、昭和63年に名古屋大学を卒業後、小規模でいわゆる野戦病院といわれる一般病院にて臨床研修を3年間行いました。まだ研修制度など存在せず、先輩の先生について周って現場で臨床を叩き込まれた時代でありました。その後、医学生時代より研究指導を頂いておりました堀田饒講師（当時であります）がお見えになる名古屋大学医学部旧第三内科に入局し、糖尿病研究室にて堀田先生のご指導を仰ぎながら、主に肝臓と糖代謝の基礎的研究をさせて頂きました。その後、ミシガン大学医学部内分泌代謝学講座グリーン教授の下でさらに研究を進める機会を頂き、3年間ほどUSAで学究生活を送り、糖尿病性神経障害の研究に明け暮れましたが、2000年問題が無事終わったのを見届けた後、日本に戻って参りました。2001年より第三内科助手として研究・臨床・教育に励んでおりましたところ、大学病院の内科臓器別再編の嵐のまただ中に放り込まれ、第三内科は消失、新規に糖尿病・内分泌内科が立ち上がり、その初代医局長を務めさせて頂きました。その後も大学病院での各種運営に関与させて頂き、貴重な経験を積んで参り

ました。研究は、基礎的研究よりゲノム医学を中心に臨床疫学研究にシフトし、糖尿病合併症易罹患性と遺伝子多型の大規模調査を開始いたしました。この研究は現在も継続しております。

本年になり、当病院の代謝内分泌内科の中山幹浩先生の退職に伴い、後任として大磯教授のご指示にて当病院へ赴任させて頂き、再度尊敬する堀田饒院長のご指導を賜る機会を得ました。学生時代より堀田先生の厳しさを知る者としましては、やや落ち込むところでもありましたが、何かと古い所が多い大学に比して、こちらの先進的かつ明るく開放的で高級感漂う病院と設備には本当に驚かされ、また各専門スタッフの、新しくなった病院をより良くしていくとの意欲あふれ活気ある雰囲気感激し、心を入れ替えた次第です。

今後、この病院の発展に、そしてこの地域の医療のために微力ながら尽くさせて頂こうと考えています。糖尿病患者はもう1000万人と言うところまで来ており、専門医のみで対応可能なレベルを超えており、この地域の医療機関の諸先生方のご協力を頂けなければ、到底糖尿病患者さんのフォローは無理であります。是非病診連携を積極的に進めていきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

糖尿病センター 医師診療予定表 ◎副院長 ○部長 △副部長

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病センター	○河村 孝彦 △金井 彰夫 渡会 敦子	◎佐野 隆久 ○中島英太郎 長嶋 正仁	堀田饒(院長) ◎佐野 隆久 今峰 ルイ	○河村 孝彦 ○中島英太郎 長嶋 正仁	◎佐野 隆久 中村 信久 渡会 敦子
糖尿病教室 (午後)	合併症	糖尿病とは	栄養指導	栄養指導	日常生活・ 運動療法

着任のご挨拶



外科部長 坂口 憲史

平成20年1月に静岡より中部ろうさい病院外科に赴任してまいりました。前任地の静岡市は、温暖で、雪が降ることはありませんでした。高層ビルは少なく、家並みの上に富士山を見つ、駿河湾の波の音を聴きながら、生活していました。

私は、名古屋大学 腫瘍外科（旧第一外科）に入局し、外科医となりました。消化器（肝、胆、膵、消化管）、乳房、内分泌、腹壁の疾患を扱ってきました。悪性腫瘍が多くを占めています。未だ、多くの悪性腫瘍では、治療の第一選択は切除です。外科的切除は、外科医にゆだねられた唯一の治療法です。積極的に手術を行っていきたいと考えています。しかし、闇雲に手術するのではなく、エビデンスに基づき、安全で、低侵襲な手術をしたいと考えています。低侵襲手術である内視鏡下手術、センチネルリンパ節生検を伴う手術など新しい治療法を行っていきたいと考えています。侵襲を小さくすることで、術後合併症を減少し、入院期間を短縮し、低コスト化を図りたいと考えています。

また、悪性疾患を治療する上でどうしても切り離せないのが、緩和医療、終末期医療です。最近では、悪性疾患と診断がついた時から、緩和医療は始まるとされています。今後も悪性新生物の増加が予測されている現代では、重要な役割があると思います。価値観が多様化した今日では、個の医師が治療の中心を担うのではなく、多くの医療スタッフが参加したチーム医療により、個々の患者にとって何が最良なのか、ケースバイケースで考え、スタッフの専門性を生かして対応していくことが必要であると思います。当院でも患者さんがよりよい生活を送れるようにサポートしていきたいと考えています。

悪性疾患ばかりでなく、良性疾患にも積極的に手術を行ないたいと考えています。痔核に対して、低侵襲的な内痔核硬化療法（下図参照）を取り入れていきたいと考えています。硫酸アルミニウム・カリウムとタンニン酸という成分からなる注射剤（ALTA（ジオン[®]）を「脱出を伴う内痔核」に注射する（1つの痔核に対して4か所注射し痔核に薬を十分に浸透させます）と、そこに炎症・線維化と癒着が起こって、痔に流れ込む血液量が激減し盛り上がった痔が萎縮・固定されて急速に症状が改善されます。従来の手術療法とほぼ同等の効果が期待できます。入院期間は短く（外来治療でも可能）、侵襲も少なく、術後の疼痛もありません。薬物治療で良くならない患者さんで、長くは入院できない方に行っていきたいと思います。

近隣の医療施設とも連携させて頂き、地域医療に貢献したいと考えています。患者さん・御家族が満足されるように努めていく所存です。諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

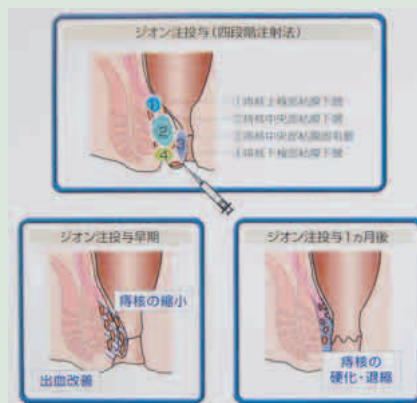


図 内痔核硬化療法

外科 医師診療予定表 ◎副院長 ○部長 △副部長

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
外科	◎小林 建仁 (消化器・食道) △橋本 瑞生 (消化器・乳腺) 交代制	○坂口 憲史 (消化器・乳腺) △石川 玲 (消化器・乳腺) 加藤 健宏 (消化器・乳腺)	○小木曾清二 (消化器・内視鏡外科) 赤羽 和久 (消化器・乳腺) 加藤 健宏 (消化器・乳腺)	○小木曾清二 (消化器・内視鏡外科) △橋本 瑞生 (消化器・乳腺) 赤羽 和久 (消化器・乳腺)	◎小林 建仁 (消化器・食道) ○坂口 憲史 (消化器・乳腺) △石川 玲 (消化器・乳腺)
特殊外来午後		乳癌健診		乳癌健診	

連携室だより

新システム要項について

現在使用いただいております診察・検査依頼票につきまして見直しを図りました。現在依頼票は下記のとおり10種類となります。

- ①診察依頼票
- ②内視鏡検査依頼票
- ③循環器科検査依頼票
- ④胃ろう外来依頼票
- ⑤糖尿病患者栄養指導依頼票
- ⑥放射線科検査依頼票
- ⑦口腔インプラントCT依頼票
- ⑧冠動脈CT検査依頼票
- ⑨終夜ポリグラフ検査依頼票（入院）
- ⑩糖尿病入院コース依頼票（2泊3日、1週間）

使用するにあたり種類が多く使用しにくいというご意見があったことから依頼票の種類を減らし、少しでも先生方のお手間を減らすために依頼票と診療情報提供書を一体とした様式に変更いたしました。

☆変更後依頼票

- 1) 予約申込票
上記①・②・③・④・⑤の依頼票を統一
- 2) 放射線科検査依頼票
上記⑥・⑧の依頼票を統一
- 3) 口腔インプラントCT依頼票
上記⑦をそのまま使用
- 4) 終夜ポリグラフ依頼票
上記⑨をそのまま使用
- 5) 糖尿病入院コース依頼票（2泊3日、1週間）
上記⑩をそのまま使用

上記のように一部変更いたしました。

今までの依頼票をそのままご使用いただくことも可能です。ご不明な点がございましたら地域医療連携室までご連絡下さい。

何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

増改築竣工記念並びに 開院50周年式典の開催について

6月7日（土）に、当院におきまして、開院50周年記念式典を開催いたしました。

ご多忙にも拘らずご出席いただいた先生方に厚くお礼を申し上げます。

今後とも先生方には当院の運営にご支援を賜りたく存じます。ご意見ご要望などございましたら地域医療連携室までご連絡いただきますようお願い申し上げます。



新任のご挨拶

医事課長 小野 一志

4月1日付けをもって労働者健康福祉機構本部産業保健課より参りました。地域の中核病院として急性期医療を担う中部ろうさい病院の一員として、地域の医療機関の皆様の期待に少しでも応えられるよう努力していきたいと、気持ちを新たにしています。

現在の医療は急速に機能分化が進み、1つの医療機関で医療を完結することは難しく、地域の診療所、病院との連携が不可欠なものになっています。このような状況の中で、地域性、人口分布等様々な条件に応じた連携が必要ですが、地域の医療機関と共栄していくことはもちろん、最終的には患者さんが満足できるような連携を継続していきたいと考えています。

今後とも地域の医療機関の皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

☎地域医療連携室（平日8：15～19：30）

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長：小林 建仁（副院長）

佐野 隆久（副院長）

事務担当：中村祐子・金井久実